

1 主題名 「後輩たちに伝えたいこと」 4－(9) 伝統, 文化

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする学習内容

内容項目4－(9)は、「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」ことをねらいとしている。

日本には世界に誇れる伝統や文化が数多くある。しかし、伝統や文化と一口に言っても日本各地で全国的に継承されているものもあれば、限られた地域で継承されているものもある。全国的に継承されている伝統や文化を尊重することは大切なことであるが、生徒にとっては、その枠組みが大きすぎて実感がわからない場合も多い。

そこで、「伝統の継承と文化の創造」という主題に迫るために、本校地区における伝統や文化を尊重する姿勢が身につくような授業を進めることにした。道徳教育とは、全教育活動の中で行われるものである。さらに、道徳教育を通して養われた心情や培われた道徳性を、授業やその場面だけに止めるのではなく、日常の生活に生かしていくことが大切である。そのためにも、生徒がかかわることができる、身近に存在する伝統や文化に触れることが必要だと考えたからである。具体的には、本校第2学年で伝統として受け継がれている十王鶉鳥舞の誕生に直接かかわった卒業生から後輩にあてた手紙を創作し、授業で扱うことにした。十王鶉鳥舞という伝統を作り出した卒業生が中学生当時に感じたことや現在の思いを知ることによって、十王鶉鳥舞に対して誇りをもち、伝統を大切にしようとする気持ちが育まれると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

価値内容に関わる実態調査（平成20年6月30日実施 生徒37名）

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1 あなたは十王鶉鳥舞に一生懸命に取り組んでいますか。 | |
| ①とても一生懸命に取り組んでいる（13） | ②一生懸命に取り組んでいる（12） |
| ③あまり一生懸命に取り組んでいない（10） | ④一生懸命に取り組んでいない（2） |
| 2 1で③、④と答えた人に聞きます。それはなぜですか。（複数回答） | |
| ・おどりを覚えるのが大変だから（8） | ・思っていたよりも疲れるから（4） |
| ・面倒だから（3） | ・その他（3） |
| 3 十王鶉鳥舞を十王中学校の伝統だと意識したことはありますか。 | |
| ・意識したことがある（18） | ・少し意識したことがある（14） |
| ・あまり意識したことはない（3） | ・意識したことはない（2） |

本学級には、明るく元気な生徒が多い。本格的に十王鶉鳥舞の練習に取り組み始めてから約1カ月が過ぎたが、生徒の中には踊りを踊ることを苦手としていたり、想像以上に踊りが大変だと感じる生徒がいたりして、教師主導の練習になっている一面もある。実態調査の1、2の質問から、約3割の生徒が積極的に取り組んでいないことや、否定的な考えをもつ生徒がいることも分かる。しかし、3の質問から分かるように、十王鶉鳥舞を伝統として受け止めている生徒は多い。十王鶉鳥舞を伝統として意識していても、進んで取り組むことができない生徒がいるのが現状である。そこで、伝統や文化を尊重する姿勢を育むためにも、十王鶉鳥舞という伝統を大切に、進んで練習に取り組むことの大切さに気づかせていきたい。郷土の伝統や文化を大切にしたい気持ちが育まれることが、生涯にわたって伝統や文化に関心をもち、尊重しようとする姿勢につながると考えている。

(3) 資料について（資料名 「後輩たちに伝えたいこと」 出典 自作資料）

十王鶉鳥舞の誕生に直接かかわった卒業生から、中学生当時に感じたことや現在の思いを後輩にあてた手紙の形でまとめた資料である。始めは乗り気でなく、面倒だとも感じていた生徒が、友だちとの協働作業やたくさんの人々との交流を通して、十王鶉鳥舞に対する見方や考え方が変わり、十王鶉鳥舞に対して「誇り」をもつようになったという内容である。手紙の最後は十王中学校の伝統として、十王鶉鳥舞を引き継いでいってほしいという、先輩としての願いが記されている。

3 本時のねらい

十王鶉鳥舞の誕生に直接かかわった先輩たちの思いや願いを知ることによって、十王中学校の伝統である十王鶉鳥舞を大切にし、積極的に取り組もうとする意欲を高める。

4 指導過程

(1) 準備・資料

アンケート集計結果用紙，資料（後輩たちに伝えたいこと），ワークシート

(2) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援の手立てと評価
<p>1 アンケートをもとに、十王鶉鳥舞に取り組む姿勢について話し合う。</p> <p>2 資料を読み，話し合う。 ○なぜ，保護者や地域の人たちは十王鶉鳥舞の誕生に協力したのだろうか。 ○どうして「僕」は十王鶉鳥舞に対して誇りをもてるようになったのだろうか。 ◎十王鶉鳥舞を続けていく必要があるのだろうか。</p> <p>3 今までの自分自身を振り返って今後の取り組みについて考え，ワークシートにまとめる。</p> <p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命に取り組んでいない人が結構いる。 ・踊ることが大変だという気持ちは分かる。 ・自分の子どもが中学校にいたから。 ・自分の住む地区の中学校のために役立ちたかったから。 ・部活動以外にも伝統と呼べるものを創りあげたから。 ・百年後に残る踊りを自分たちの手で創っていると感じるようになったから。 ・たくさんの人がかかわってきた十王鶉鳥舞だから，絶対に続けていく必要がある。 ・面倒だが，続けていく必要はある。 ・先輩の十王鶉鳥舞に対する思いが分かった。その気持ちを自分たちが受け継いでいきたい。 ・今年から内容が少し変わったので，伝統を受け継ぐだけでなく，自分たちの鶉鳥舞を創っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に意見を発表できるような雰囲気づくりに心がける。 ・保護者や地域の人たちの思いに気づかせることによって，十王鶉鳥舞は地域にとっても大切な存在であることに気づかせたい。 ・「僕」の思いに共感できるように話し合いを深めるとともに，その思いを今に受け継いでいるのが自分たちであるということに気づかせたい。 ・いろいろな人の思いがあって，現在の十王鶉鳥舞が存在していることを伝える。 <p>【評】「僕」の思いに気づき，十王鶉鳥舞という伝統を大切にし，積極的に練習に取り組もうとする気持ちももてたか。(ワークシート，発表，観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学校にも胸を張って誇れる伝統があることを，一卒業生として伝えたい。

5 関連・発展

- ・事前，事後指導を通して，伝統や文化を大切にする気持ちを意識させるとともに，掲示物等を通して，継続的に十王鶉鳥舞という伝統に触れる機会をつくっていく。
- ・11月に行われる日立秋祭りに向けて，十王鶉鳥舞に積極的に取り組むように呼びかける。

後輩たちに伝えたいこと

十王中学校のみなさん、お元気ですか。僕は十王鶉鳥舞が始まった年に中学二年生だった卒業生です。突然ですが、みなさんは十王鶉鳥舞が好きですか。僕は嫌いでした。いきなり先生から踊りを踊ると言われたときは、いやだなという気持ちがとても強かったです。実際に練習が始まると踊りを覚えるのが大変だったし、面倒だと思っていました。なぜ、踊る必要があるのかいつも考えていました。

そんな気持ちが変わり始めたのが、本格的に係の仕事に取り組み始めたころでした。最初に、生徒全員が振り付け係、小道具係、衣装係のどれかに入ることになったのですが、僕は衣装係を選びました。踊ることは得意でないし、小道具を作るのも面倒くさそうだったからです。それに、衣装は保護者が作ると聞いていたので、衣装係が一番楽だと思ったからです。しかし、衣装係の仕事は想像していたよりも大変でした。まず、どんな衣装にするのかを図書室にある本やインターネットで調べたのですが、一人一人の意見が違っていて、原案を作るのにとっても時間がかかりました。何とか原案を考えたのですが、今度は荒馬座の方から「複雑で制作が間に合わないのではないか」と言われ、係の中で何回も話し合いを重ねました。ようやく荒馬座の方から認められる原案が完成したときには、ほっとしました。

ところが、衣装係の仕事はそれだけではありませんでした。衣装の制作が待っていたのです。衣装の制作は主に夏休みに行いました。ほとんどは保護者や地域の方が作ったのですが、僕も布を切る手伝いなどをしました。自分たちで考えた原案が、だんだんと形になり、本物の衣装になったときの喜びは格別でした。後で聞いた話ですが、袴や上着などの衣装の総数は五百五十点にもなったそうです。夏休みにもかかわらず、毎日のように学校に来て、被服室で衣装を作ってくれた保護者や地域の方には、今でも感謝しています。

十一月の本番に向けて練習は大変になりましたが、僕は係の仕事を通して、少しずつ十王鶉鳥舞が好きになっていきました。今でもそうでしょうが、当時から十王中は部活動が盛んで、関東大会や全国大会に出場する部活動がたくさんありました。十王中の伝統と言えば部活動が盛んなことですが、部活動以外にも十王中の伝統と呼べるものを自分たちでつくっているのだと思えるようになりました。最初に「百年続く踊りをつくろう」と先生に言われたときは、何を言っているのか分からなかったけれど、これから何年も続いていく十王鶉鳥舞の誕生に自分がかかわれたことを誇りに思えるようになりました。残念ながら本番は大雨で、最後まで踊ることができませんでしたが、僕にとってはとても貴重で大切な経験になりました。

伝統とは一年や二年でできあがるものではありません。みなさんが踊っている十王鶉鳥舞は、生まれつきの伝統ですが、これから百年続いていく伝統です。みなさんは百年続いていく伝統を受け継いでいるのです。どうかみなさん、そのことを忘れないでいてください。それが、僕だけではなく、卒業生からの願いです。